

機関番号：12601

研究種目：国際共同研究加速基金（帰国発展研究）

研究期間：2017～2019

課題番号：16K21743

研究課題名（和文） 保育政策が母親の就業とこどもの発達に及ぼす影響

研究課題名（英文） Effects of Childcare Policy on Mothers and Children

研究代表者 山口 慎太郎 (YAMAGUCHI, Shintaro)

東京大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：20793946

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）25,500,000円

研究成果の概要（和文）：

育児利用が母親の労働市場アウトカムに及ぼす限界的な介入効果を日本の地域をまたぐ保育拡大を用いて推計した結果、異質な介入効果は保育利用性向と負の関係にあると示された。育児割当ルールでは労働市場の参加度が強い母親に保育枠が割当てられる傾向があると明らかになった。

また、保育所入所が及ぼす子どものアウトカムへの効果を推定した結果、低学歴の母親の子どもに言語発達の改善、不注意、多動性、攻撃性の軽減が見られた。親のアウトカムも検討すると、低学歴の母親の保育利用は子育ての質と主観的幸福感を向上、ストレスを減少させると分かった。保育の恩恵を最も受ける子どもが保育を受ける可能性が低く、非効率的な配分が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、保育所利用は母親の就業促進と同時に子どもの発達にも有益な影響があると示された。子どもへの好ましい影響は特に社会経済的地位が低い家庭で見られ、この層への援助は費用対効果が高いと示唆した。一方で、こうした家庭が必ずしも認可保育所にアクセスできておらず、保育所割当の制度に一端があると明らかになった。

また、ある地方自治体の協力の下で認可保育所への入所申請世帯に対する全数調査を実施、入所申請の実態の検証や入所・留保世帯の比較分析を行った結果、母親の就業のみならず精神的負担感、父親の家事・育児分担に差が見られた。今後はこの結果を更に分析し、保育所利用の若い家族への影響を明らかにしていきたい。

研究成果の概要（英文）：

We estimate the marginal treatment effect of childcare use on mothers' labor market outcomes by using a staggered expansion of childcare services across regions in Japan. Estimates show that the heterogeneous treatment effects are negatively associated with the propensity to use childcare, which implies that mothers who increase their labor supply the least when subjected to the treatment are those mothers with the highest underlying tendency to use childcare. Because of the childcare rationing rules, the slots tend to go to mothers who have the strongest labor force attachment.

In another paper we estimate the effects of childcare enrollment on child outcomes and find that childcare improves language development and reduces the symptoms of inattention, hyperactivity, and aggression among children of low-education mothers. We also examined parental outcomes. Estimates indicate that childcare use improves parenting quality and subjective well-being and reduces stress among those mothers. Our estimates for marginal treatment effects indicate that children who would benefit most from childcare are less likely to attend, implying inefficient allocation.

研究分野：財政・公共経済

キーワード：1. 保育 2. 女性就業 3. 幼児教育 4. 攻撃性 5. 多動性 6. 言語発達

1. 研究開始当初の背景

保育所の利用が母親の就業の有無に与える影響についてはこれまでに数多くの論文が書かれてきたが、労働時間や収入、職種、正規・非正規といった就業形態などの詳細な点についてはデータ不足のため、あまり検証されてこなかった。保育所を利用して母親が就業し始めると、それに伴って家事や子育てにかけられる時間が減少するが、その穴埋めのために父親が家事や子育ての時間を増やしているかもしれない。したがって保育所利用が労働市場のみならず、家庭内においても男女間の平等を促進している可能性がある。しかし、こうした変化を捉えるために必要な幼い子供を持つ家庭を対象とした詳細な家計データは珍しいため、家庭内活動の変化に注目した分析はほとんど行われていこなかった。

保育所利用が子供の健康と発達に与える影響については、社会的には極めて重要だと考えられるものの、因果推論に基づいた日本の子供の分析は私の知る限りまだ見られない。海外においても好ましい影響があったとする論文 (Heckman 2006 Science など) と悪影響を及ぼしたとする論文 (Baker et al 2008 JPE など) が出版されており、どのような要因が違いを生み出しているのか研究が続けられている。

2. 研究の目的

本研究では、認可保育所の利用が家族のあり方をどのように変えるのか明らかにする。具体的には、

(1) 母親と父親の就業ならびに家事・子育て時間に及ぼす影響

(2) 子供の発達・健康面に及ぼす影響

を推定する。詳細な家計データの分析を通じて、なぜ保育所の利用が子供の発達に影響を及ぼすのか、そのメカニズムもあわせて検証する。実証分析の結果は、より良い保育政策を考えるための有益な材料を提供できる。たとえば、数多くいる待機児童の中から特に好ましい効果が大きい家庭を選んで優先的に利用権を付与するような制度を設計することが可能になる。

3. 研究の方法

政府統計の利用申請とデータの整理を行った。幼い子供達を抱える家庭に注目した 21 世紀出生児縦断調査には、両親の就業や、家事、子育て、またそれに加えて子供の発達・健康に関する情報が記録されており、包括的な子育て家庭の分析を行った。保育所に関する情報は、社会福祉施設等調査、福祉行政報告例、地域児童福祉事業等調査などを通して得た。保育所の運営は現在市町村単位で行われているため、家計・個人データの居住地情報と組み合わせることにより、個々の家庭が直面する保育所の質や利用のしやすさに関する指標を作成した。保育所の質は保育士の配置状況や施設面の充実度などから捉え、保育所の利用のしやすさについては、当該地域の子供一人あたりの認可保育所定員数などで測った。計量経済学モデルの推定も簡単なものから開始した。特定の関数形に結果が左右されないようにノンパラメトリック・セミパラメトリック推定法を適宜活用している。また標準誤差の推定にはブートストラップ法が必要になったが、こうした手法を使うと計算量が多くなり、かなりの時間を要したが、高性能なワークステーションを導入することにより、効率的に研究を進めることができた。

4. 研究成果

研究期間全体を通じて、保育所の利用が母親の就業や子供の発達に及ぼす影響について、様々な事実を明らかにし、その研究成果を論文として、国際的な査読付き学術誌に出版した。それに加えて、一般の日本語読者についてもその内容が容易に理解できるように新書の出版も行った。それらにいたる過程では、学会、大学でのセミナー発表を行い、有意義な討論を行うことができた。また、西宮市と協力して行った保育利用申込者に対するアンケートも集計を行うことができた。それにより、基本的な記述統計を整理し、西宮市に報告書を提出した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 (計 19 件)

- ① Shintaro Yamaguchi, Hirotake Ito and Makiko Nakamuro, Effects of Class-Size Reduction on Cognitive and Non-cognitive Skills, Japan and the World Economy, 査読有, vol. 53, 2020, pp. 1-10,
DOI: 10.1016/j.japwor.2019.100977
- ② Shintaro Yamaguchi, Effects of parental leave policies on female career and fertility choices, Quantitative Economics, 査読有, vol. 10, 2019, pp. 1195-1232,
DOI: 10.3982/QE965
- ③ Shintaro Yamaguchi, Changes in Returns to Task-Specific Skills and Gender Wage Gap,

Journal of Human Resources、査読有、vol. 53、2018、pp.32-70、
DOI: 10.2139/ssrn.2035833

- ④ Shintaro Yamaguchi, Yukiko Asai and Ryo Kanbayashi、Effects of Subsidized Childcare on Mothers' Labor Supply Under a Rationing Mechanism、Labour Economics、査読有、vol.55、2018、pp. 1-17、
DOI: 10.2139/ssrn.2954882
- ⑤ Shintaro Yamaguchi, Yukiko Asai and Ryo Kanbayashi、How Does Early Childcare Enrollment Affect Children, Parents, and Their Interactions?、Labour Economics、査読有、vol.55、2018、pp. 56-71、
DOI: 10.2139/ssrn.2932875
- ⑥ Shintaro Yamaguchi、Family Policies and Female Employment in Japan、Japanese Economic Review、査読有、vol. 68、2017、pp. 305-322、
DOI:10.1111/jere.12136

[学会発表] (計 34 件)

- ① Michihito Ando, Hiroaki Mori, Shintaro Yamaguchi、Effects of Universal Early Childhood Education on Adolescent Behavioral Outcomes、The Society of Labor economists Twenty-Fourth Annual Meetings、2019
- ② Shintaro Yamaguchi, Yukiko Asai and Ryo Kanbayashi、How Does Early Childcare Enrollment Affect Children, Parents, and Their Interactions?、Society of Labor economists Twenty-Third Annual Meetings、2018
- ③ 山口慎太郎、保育園通いは子供の発達にどんな影響?大規模調査からのエビデンス、日本赤ちゃん学会第18回学術集会、2018
- ④ Shintaro Yamaguchi、Dynamic Effects of Age at School Entry: What Roles Do Parents, Teachers, and Peers Play?、Kyoto Summer Workshop on Applied Economics 2018、2018
- ⑤ Shintaro Yamaguchi, Hirotake Ito and Makiko Nakamuro、Why Is Birth-of-Month Effect So Persistent? : Roles of Parents, Teachers and Peer、Asian and Australian Society of Labour Economics 2018 conference、2018
- ⑥ Shintaro Yamaguchi、How Does Early Childcare Enrollment Affect Children, Parents, and Their Interactions?、Asian and Australian Society of Labour Economics Inaugural Conference、2017
- ⑦ Shintaro Yamaguchi、Rise in Wage Inequality Between Firms: Evidence from Japan 1995-2013、2017 KDI Journal of Economic Policy Conference、2017
- ⑧ Shintaro Yamaguchi、Effects of Parental Leave Policies on Female Career and Fertility Choices、Joint conference of Seoul National University and University of Tokyo、2017
- ⑨ 山口 慎太郎、保育園通いは子供の発達にどんな影響?大規模調査からのエビデンス、日本学術会議主催学術フォーラム、2017
- ⑩ 山口 慎太郎、動学的離散選択モデルの構造推定—基礎と労働経済学への応用—、第20回労働経済学カンファレンス、2017
- ⑪ 山口 慎太郎、技術革新は労働市場をどう変えるのか、日本経済学会 2017 年度秋季大会、2017

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

〔図書〕(計2件)

- ① 山口 慎太郎、光文社新書、「家族の幸せ」の経済学、2019、264
- ② 神林 龍、慶応義塾大学出版会、正規の世界・非正規の世界、2017、456

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.e.u-tokyo.ac.jp/fservice/faculty/yamaguchi/yamaguchi.j/yamaguchi01.j.htm>
<https://researchmap.jp/shintaroyamaguchi?lang=ja>
<https://sites.google.com/site/shintaroyamaguchi/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：安藤 道人

ローマ字氏名：ANDO, Michihito

所属研究機関名：立教大学

部局名：経済学部

職名：准教授

研究者番号(8桁)：10749162

研究分担者氏名：神林 龍

ローマ字氏名：KAMBAYASHI, Ryo

所属研究機関名：一橋大学

部局名：経済研究所

職名：教授

研究者番号(8桁)：40326004

研究分担者氏名：森 啓明

ローマ字氏名：MORI, Hiroaki

所属研究機関名：専修大学

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

部局名：経済学部

職名：准教授

研究者番号 (8桁)：40778247

研究分担者氏名：川口 大司

ローマ字氏名：KAWAGUCHI, Daiji

所属研究機関名：東京大学

部局名：大学院経済学研究科

職名：教授

研究者番号 (8桁)：80346139

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。